

河川土木工事業におけるはさまれ巻き込まれ災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	9~10	資材置場にて、4トンダンプカーに鉄板積込作業（PC200、アームクレン仕様）中、鉄板1500mm×3000mm×22cmを積込の際、相手方との合図の未確認のため鉄板にて右手首を挟む。	59	1~9
2	14~15	災害復旧の為の護岸修復作業中、水の流れを一時的に切り替える為の樋と樋を接続する為の特製ビニールシートを設置しようとして水の流れが強かったため、作業に手間取りユンボで樋を押す作業の人間とタイミングが合わず、手を放す前に樋が押されたため、樋と樋の間に指を挟み負傷した。	62	1~9
3	11~12	災害復旧事業下堰用水路復旧工事作業において、パイプ（600Φ×4m）のジョイント水回し作業中、重機で押してパイプの変形を修正しながら作業をしていたところ、安全が確保されていない状態で動かしたため、両足でパイプを押さえていた被災者の右足が堰のコンクリートとパイプの間に挟まれて受傷した。	65	1~9
4	11~12	仮締切内1段支保工下の二次掘削箇所で、仮締切鋼矢板に付着した土ベラ落としをしているときに、地上から掘削中の0.7?ロングアームバックホウのバケットと仮締切鋼矢板の間に入ってしまい、被災者の右足がバックホウのバケットと仮締切鋼矢板の間に挟まれ被災した。	25	30~49
7	8~9	工事現場事務所横で、バックホウのアタッチメント交換時に、アタッチメントの連結金具が未固定であった箇所に手があたったために金具に挟み負傷した。	25	10~29
		当該作業場ブロック布設作業に於いて、バックホウ（移動式クレーン仕様）0.5?級にて、横帯ブロック（1.34t）吊上時に、吊荷重心が合わず荷が振れたため、オペ		10

7	13~14	レーターが再度吊り直しを行うために吊り荷を降ろしたと同時に、被災者が振れを抑えようと手を伸ばしたところ、降ろした横帯ブロックと地面の接地面が合わずに、被災者の方向へ横帯ブロックが倒れ足が下敷きになり負傷した。	44	~ 29
7	16~17	プレキャスト側溝pu300を敷設作業中で設置位置の微調整作業をバールを使用して行っていた。被災者はpu側溝の端を両手でもって手元をしていたが、左手薬指先が既設配管に挟まれて負傷した。	51	~ 9
7	9~10	貯水池工事で岩掘削（火薬使用）にて、クロラードリルを使用した穿孔中に、オペレーターはロッドが閉塞したため一度解消するためにロッドを一旦穿孔中の孔から抜き差しする操作を行った。被災者は穿孔が完了したと思い、孔の入口付近に蓄積された粉で孔が塞がるのを防ごうと手で払いのけようとした瞬間、オペレーターは穿孔が完了していなかったため、再開しようとロッドを下げたため、孔とビットに右手を挟まれて負傷した。	22	~ 9
7	11~ 12	作業場で片づけの作業中にあやまって手で動かしていた天然石で指を挟んでしまった。	36	~ 9
9	16~ 17	河川工事でブロックを移動させていた際、ブロックが転がり、笠木ブロックと、ブロック塀の間に手の指を挟まれた。	48	~ 9
11	7~8	作業前の始業前点検時、バックホウ台船上の左舷側のウインチの乱巻を整えようとした時、安全な体勢で作業を行っていなかった為、被災者がウインチのワイヤーに手を巻き込まれた。	54	~ 9
12	13~14	資材置場にて、矢板およびH鋼（0.3m×0.3m×2.5m）をバックホー（0.25?）を使って移動するとき、左足甲を負傷した。端太角の場所に段差があったため、足がそれより高い所にあったことに気づかなかった。	63	~ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html

